

FUJIの価値創造

工作機械からロボットへと事業の核を移し、さまざまなイノベーションを生み出しながら誰もが心豊かに暮らせる未来をつくる。そのために社会課題、取り組むべき事業、企業理念を繋ぎ成功への道筋を表したのがFUJIの価値創造プロセスです。先行きの不透明さが増すなか、この価値創造プロセスを針路に企業価値の向上と持続的成長への歩みを続け、時代ごとに生まれる新しい社会のニーズに応えながら企業、社会、環境、さらには経済とのより良い関係を築いていきます。

ありたい姿

世界にinnovationを提供し
人々の心豊かな暮らしを実現



価値創造を支える6つの資本

FUJIは、パーパス「人々の 心豊かな 暮らしのために」の実現に向け、6つの資本を経営基盤として位置づけています。

これらの資本を強化しながら、ものづくり・くらし・みらいへの貢献を通じて持続的な企業価値向上を目指します。

経営資本

(2026年3月31日時点)

各資本の説明		資本強化に向けた取り組み例
社会・ 関係資本	連結グループ会社: 18社 13カ国で展開 グローバルサービス拠点: 100カ所以上 累計出荷国: 70カ国以上	- グローバルな販売・サービスネットワークの強化 - VoC(Voice of Customer)活動によるお客様との関係強化 - サプライチェーンにおけるBCP体制の強化と品質安定性の向上
財務資本	総資産: 2,783億円 自己資本: 2,323億円 自己資本比率: 83.5%	- 全方位戦略による売上拡大と収益力の強化 - ROE11 %以上を目指した資本効率の改善 - 成長投資と株主還元の両立 - 機動的な自己株式取得
知的資本	特許登録件数: 7,239件 研究開発費: 85億円	- 市場競争力のある製品・サービスの開発 - 知財ポートフォリオの最適化と権利化の推進 - 発明報奨制度、イノベーション研修、アイデア創出プラットフォームなどの整備
製造資本	製造拠点: 7社 設備投資額: 115億円	- 岡崎新工場棟を活用したNXTRのライン生産による標準化・平準化 - 人とロボットの協働による自動化・省人化推進 - 製造実行システムを活用した可視化・トレーサビリティ強化
自然資本	CO₂排出量: 507,615t-CO₂(単体) 再生可能エネルギー導入比率: 約36% (FUJIグループ生産拠点)	- 環境配慮製品・環境貢献製品の開発・拡充 - バリューチェーン全体のCO₂排出量削減 - 再生可能エネルギーの活用
人的資本	連結従業員数: 3,132名 単体従業員数: 1,771名 DX人材: 108名	- 人材マネジメントの強化 - DX人材育成、創開塾、マルチスキル育成の推進 - 健康経営、ダイバーシティ&インクルージョンの推進 - 採用手法の高度化と人材流動化の促進

FUJIのマテリアリティ

基本的な考え方

変化し続けるマクロ環境のもと、将来の予測が難しい状況においても、当社はパーパスである「人々の心豊かな暮らしのために」の実現に向けて挑戦を続けています。2023年度には、サステナブルな社会の実現への貢献を目指し、取り組むべき6つの社会課題を特定するとともに、事業領域との関連性を踏まえ、「ものづくり」「暮らし」「みらい」の3つのカテゴリーから成る重要課題としてマテリアリティを定めました。

ものづくり



- ものづくり企業として
事業による社会課題の解決に寄与

【対応する社会課題】

- ・産業の効率化
- ・品質安定性

暮らし



- 豊かな社会へのアクセスの拡充

【対応する社会課題】

- ・労働人口の不足
- ・働きがいのある職場整備

みらい



- カーボンニュートラル社会への貢献
- イノベーション人材の創出

【対応する社会課題】

- ・働きがいのある職場整備
- ・脱炭素
- ・資源循環

マテリアリティの特定プロセス

マテリアリティの特定にあたっては、米国サステナビリティ会計基準審議会 (SASB)、Global Reporting Initiative (GRI) などの各種評価機関のサステナビリティ指標、SDGsなどを参考に、注目・重要視されている社会課題を30項目抽出しました。抽出した社会課題を整理・評価し、ステークホルダーとFUJIにとっての重要度を軸に優先順位付けを行い、社会課題マトリクスを作成しました。

特定した社会課題と、当社事業領域より、当社マテリアリティとテーマを策定し、取締役会へ報告、承認されました。策定されたマテリアリティとテーマから落とし込んだ具体的な取り組みを進めることで、社会課題の解決に貢献してまいります。

1 社会課題の抽出

各種サステナビリティ指標、SDGsなどを参考に30項目を抽出

2 社会課題の優先順位付け

重要な社会課題を抽出し、社会課題マトリクス案を作成

3 妥当性・網羅性の議論

サステナビリティ推進委員会にて議論

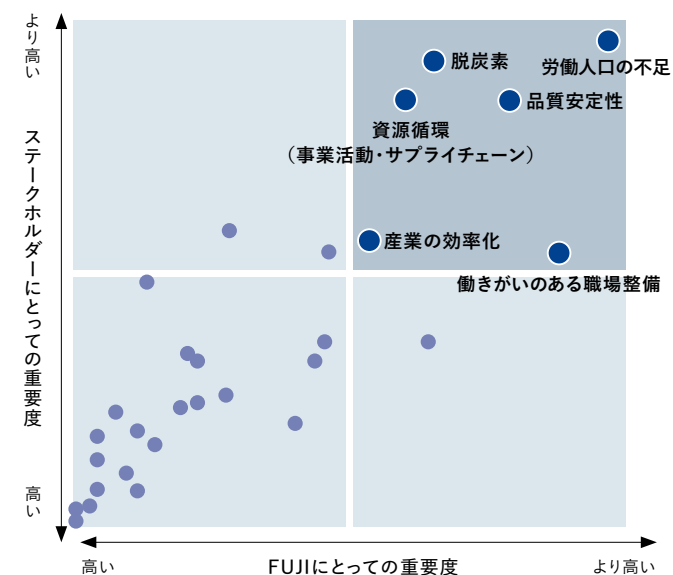
4 社会課題の優先順位付けの再評価

ステークホルダーへアンケートを実施、結果をマトリクスへ反映

5 抽出した社会課題 × 当社事業領域から 当社マテリアリティを策定

取締役会にて報告・承認

社会課題マトリクス



FUJIのマテリアリティ

マテリアリティカテゴリー	社会課題	リスクor機会	テーマ	製品/取り組み	関連するSDGs				
 ものづくり ものづくり企業として 事業による社会課題の 解決に寄与	産業の効率化	リスク	● 自動化・省人化 ● 無駄がないものづくり	● 電子部品実装ロボット(マウンター) ● 半導体製造装置(ダイボンダ) ● 工作機械 ● スマートファクトリー展開 ● 事業ポートフォリオの再構築	   				
						機会			
		品質安定性					リスク	● DX・スマート化 ● グローバル連携	● ITソリューション ● トレーサビリティ ● サービスネットワークの強化 ● トレーニング体制の強化
						機会			
 くらし 豊かな社会への アクセスの拡充	労働人口の不足		リスク	● 人材不足 ● ラストワンマイル問題 ● 高齢化	● スマートロッカーシステム ● 介護ロボット ● 女性管理職・ 海外従業員比率の向上		      		
						機会			
		働きがいのある 職場整備	リスク					● 健康経営 ● 次世代への教育支援 ● ダイバーシティ ● キャリアパスと成長機会	● 心身の健康配慮 ● 地域教育 ● 働きやすい環境の 整備・制度の充実 ● 教育制度・評価制度・ 育成プログラムの整備
						機会			
 脱炭素	リスク		● 気候変動への対応 ● リスク管理・ ガバナンス強化	● バリューチェーン全体での CO ₂ 排出量削減 ● サステナビリティへの 取り組み強化 ● ガバナンス体制の強化	     				
						機会			
	資源循環	リスク					● 環境貢献製品の拡充	● サプライチェーンマネジメント ● 廃棄物選別ロボット ● 大気圧プラズマユニット	      
						機会			

中期経営計画2026 — 2年目の進捗

中期経営計画2026 基本方針

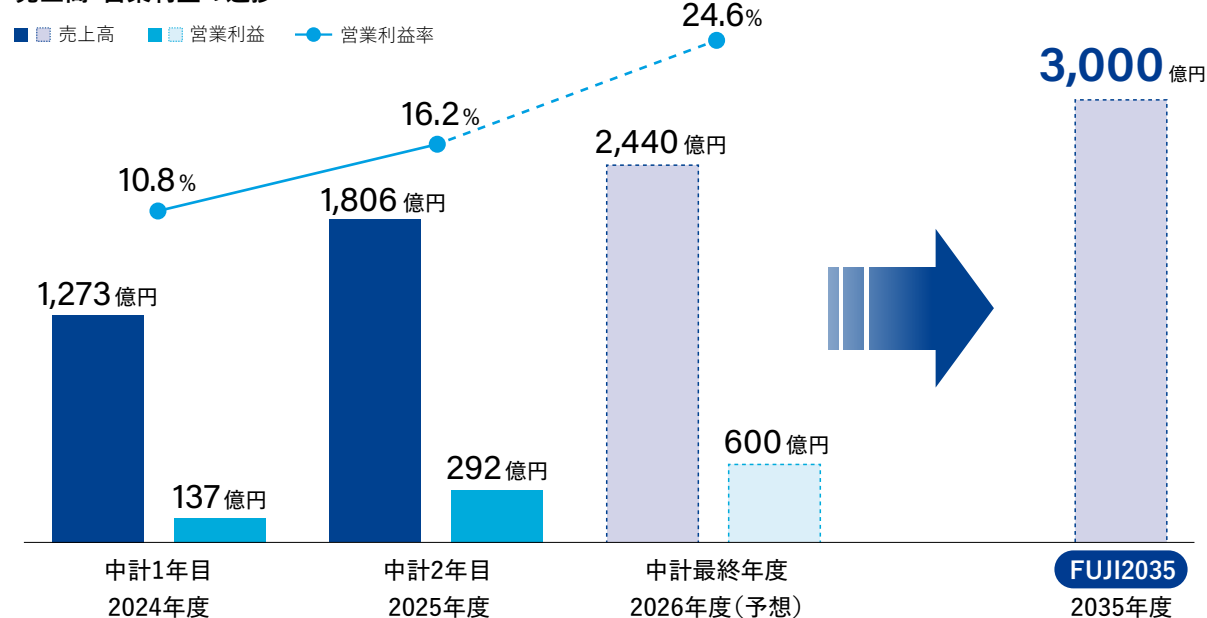
1 既存事業の拡大と
収益力強化

2 次世代ビジネスの
創出と事業化

3 ESGに基づく
事業基盤の向上

	2年目実績	→	最終年度予想
売上高	1,806億円	➡	2,440億円 当初目標 1,800億円
営業利益	292億円	➡	600億円 当初目標 330億円
営業利益率	16.2%	➡	24.6%
ROE	7.0%	➡	11%以上 当初目標 10%

売上高・営業利益の進捗



2年目で中計目標の売上高1,800億円を達成

中期経営計画2026では、「既存事業の拡大と収益力強化」「次世代ビジネスの創出と事業化」「ESGに基づく事業基盤の向上」を基本方針に掲げ、長期ビジョン「FUJI2035」の実現に向けた取り組みを推進しています。2025年度は、AIサーバー関連および半導体関連需要の拡大を背景に、ロボットソリューション事業が大きく成長しました。旗艦機種であるNXTRの拡販や岡崎新工場棟の稼働による生産能力強化に加え、ダイボンド事業も市場回復を追い風に拡大した結果、売上高は1,806億円

となり、中期経営計画で掲げた2027年3月期の売上高目標1,800億円を1年前倒しで達成しました。また、ROEは7.0%まで向上し、資本効率の改善も着実に進展しています。一方、マシンツール事業については市場環境の影響を受け収益力改善が課題となっています。加えて、QuistやHugなど次世代事業の育成やESG経営の推進にも取り組み、事業ポートフォリオの進化と企業価値向上を着実に進めています。

中期経営計画2026 ― 重点施策の概要

中期経営計画2026の基本方針に基づき、既存事業の成長加速、新規事業の創出およびESGを軸とした経営基盤の強化に取り組んでいます。これらの取り組みを着実に実行し、持続的な成長と企業価値の向上を目指します。

1 既存事業の拡大と収益力強化

会社を支える現在の主力事業について、市場シェア拡大と収益構造改革を推進します。

電子部品実装ロボット(マウンター)

- 当社売上の大部分を占める主力事業
- AIサーバー、車載、半導体などの成長市場でシェア拡大を目指す
- AIサーバー・SiP向け実装機能強化
- 需要変動に対応する安定生産体制の構築
- FUJI Smart Factoryによる自動化ソリューションの拡充



半導体製造装置(ダイボンダ)

- AI需要等により今後の市場規模拡大が見込まれる事業
- メモリ分野でのシェア維持に加え、非メモリ分野やハイブリッドボンディングへ事業領域拡大を推進
- 高精度ダイボンダ投入



工作機械

- ターンキーソリューションに強み
- 収益性の高い保守・改造等を強化し、事業基盤の確立と持続的な収益成長(黒字化)を目指す



2 次世代ビジネスの創出と事業化

「ものづくり」「くらし」「みらい」のマテリアリティカテゴリーに基づき、社会課題を解決する新たな事業を創出・育成します。

ライフサポート

- 市場開拓・拡大を担う成長期待領域として、介護・医療や物流・小売などの現場における課題に対し、ロボット技術と自動化技術を活用したソリューションを提供
- 導入先の拡大やサービスの用途展開を進め、事業成長を加速



介護ロボットHug



スマートロッカーシステムQuist

社会課題解決型の新事業創出

- 市場ニーズに基づいた新たなソリューションの創出と事業化を推進
- オープンイノベーションや社内外の連携を通じて新たな事業テーマを創出
- 既存事業の近接領域への拡大による収益機会の創出



廃棄物選別ロボットR-PLUS

3 ESGに基づく事業基盤の向上

持続的な成長を支える経営基盤を強化し、長期的な企業価値向上を実現します。



E 環境

- バリューチェーン全体でのカーボンニュートラルへの取り組み推進
- LCAに基づく環境イノベーションの実施



S 社会

- 多様な人材の活躍推進
- エンゲージメント向上
- DX人材の育成・確保
- 新たな採用手法の確立
- 健康経営の推進



G ガバナンス

- グループ経営体制の推進
- 事業ポートフォリオの見直し
- リスクマネジメントの強化
- サプライチェーンにおけるBCP強化
- 取締役会実効性評価結果の改善
- 情報セキュリティの強化



IR・ブランディング

- 情報開示の充実と企業価値発信の強化
- IRミーティングおよび個人投資家向け説明会の拡充
- メディア活用によるFUJIブランドの強化